

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日:令和3年 1月 15日

事業所名: 児童発達支援センターひまわり

事業所職員及び保護者の方の御意見を踏まえ、自己評価の結果を公表します。
評価を踏まえて、事業所の運営における課題点及び改善すべき点を確認し、今後の運営に活かしていきます。

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない			
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	3	12	0	児の成長を見て、個別スペースを変更した。	55	4	0	3	活動的なタイプなので、もう少し体を動かせるスペースがあるといいなと思います。	運動場や屋外遊具を使った活動をより充実させていく。
	2 職員の適切な配置	1	14	0	緊急時に対応するためパート職員の配置を考慮した。	51	4	1	7	親でも分からない部分の気付きがあり安心して預けられる。	職員の増員を要望するとともに、業務内容の見直しを行う。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障がいの特性に応じた設備整備	3	12	0	各活動場所にスケジュールカードを入れるポケットを設置し、場の切り替えを意識できるようにした。	58	2	0	2	個々に合わせて絵カードや実物で提示をしていて、とても分かりやすいと思います。	コミュニケーションに関する研修を充実させ、児童の思いを受け止め、指示が適切に伝わるよう努める。
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	11	4	0	毎日の清掃と週1回の大掃除に加え、業者による清掃も行った。	59	0	0	3	いつもとてもきれいに掃除されています。	児童が触れる所や玩具などの消毒を定期的に行い、感染症予防に努める。
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)への職員の積極的な参画	6	9	0	行事後に反省と改善について協議し、次回に生かせるよう記録を蓄積している。	/	/	/	/	/	児童降園後、週2回時間を設け、実態を確認し、取組方法について協議する。
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	4	11	0	指導監査及び実地指導の指摘事項や外部講師の助言に沿った支援や指導の見直しに努めた。	/	/	/	/	/	関係諸機関からの指導や助言を業務改善に生かすようにする。
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	9	6	0	外部講師の定期的な訪問や手話教室開催などを通して実践的・具体的な指導法を学んでいる。	/	/	/	/	/	外部講師と児童・職員の実態に沿った研修ができるよう協議し、園内研修を充実させる。
適切な支援の提供	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	11	4	0	ケース会を各組で定期的に行い、現状や支援方法等について協議をもつようにした。	60	1	0	1	個別性のある支援計画で達成できない目標ではないので子どももしんどくないと思う。	保護者との情報交換を密に行いニーズや課題を共有し、家庭と園が共通意識をもって対応できるようにする。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	10	5	0	3か月を単位とした支援計画を作成し、保護者に説明するとともに、家庭と園が共通意識をもって取り組むようにした。	56	0	0	6		園内での支援内容をより具体的に記述するとともに、家庭での活動との関連性を高めていく。
	3 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	11	4	0	友達への声の掛け方や誘い方を個別・具体的に助言することで集団遊びに意欲的に取り組めるようになってきた。	/	/	/	/	/	各種活動について職員が活動目的を再確認し、内容を評価していくことで支援計画を充実させる。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標	
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見
適切な支援の提供（続き）	4	10	5	0	職員会議等で他の組に支援を協力し、職員が共通意識をもって児童に対応できるようにした。	58	0	0	4	個々の支援計画について組の職員が共通理解し、多面的な支援ができるようにする。	
	5	8	7	0	1年を4期に分け、それぞれにテーマを定め、各組で発達に沿った活動を行うようにした。					各期ごとに活動プログラムを立案し、具体的な児童の動きなどを職員会議で協議する取組を継続する。	
	6	8	7	0	それぞれの季節や期のテーマを重視した活動を取り入れ、児童が意欲的に活動できるように努めた。	44	3	0	14	そのときの状態に応じて考慮されておりよいと思う。	外部講師の助言や他施設の取組を参考に児童が意欲的に取り組める活動を創造していく。
	7	2	13	0	保護者と連絡を取り合い、必要としている情報を提供したり、助言をしたりするよう努めた。						保護者との情報交換を密に行い、早めに情報提供を行うようにする。
	8	10	5	0	ミーティングを毎朝行い、当日の活動や注意すべき点について確認できるようにした。						毎朝のミーティングを継続し、当日の活動や役割分担を確認する。
	9	10	5	0	支援終了後に各組で日誌を記述する中で、一日の振り返りを行うとともに、改善点などを話し合うようにした。						毎日の組日誌を作成する中で、当日の取組を振り返り、翌日の活動に生かせるよう改善策を共有する。
	10	13	2	0	児童個々の日々の記録を記述するとともに、ケース会議等での実践及び改善記録として活用している。						個々の活動内容や変化、成長の様子などを記録し、支援計画作成時の資料となるよう活用していく。
	11	11	4	0	3か月ごとにモニタリングを行い、支援計画の達成状況を判断し、時期の目標や支援方法について検討している。						モニタリングにより成長と課題を確認し、発達に応じた計画となるよう見直しを行う。
関係機関との連携	1	8	7	0	参加者は、サービス担当者会議で情報を収集するとともに、職員に情報を提供するよう努めた。						国や県・市の動向に注視し、よりよい支援ができるよう全職員で情報を共有していく。
	2				（医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合）地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施						非該当

区分	チェック項目	事業所の現状評価			保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ		わからない	保護者の方のご意見
関係機関との連携（続き）	3 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備				非該当						
	4 児童発達支援事業所及び放課後等デイサービス事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	8	7	0	他園・校から見学のため来園したり、支援方法について協議するなど、具体的な連携ができるようになってきた。						職員が互いに訪問する機会を多くもつようにし、具体的な支援方法等について細やかな情報交換を行う。
	5 他の障害福祉サービス事業所等への円滑な移行支援のため、それまでの支援内容等についての十分な情報提供	8	7	0	保護者の同意を得た上で具体的な支援方法等について情報を提供してきた。						児童が他の施設に円滑に移行できるよう情報提供に努める。
	6 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携や、専門機関での研修の受講の促進	5	10	0	専門機関との情報交換を重視するとともに、外部の研修にも積極的に参加するようにした。						関係諸機関の研修を職員に紹介するとともに、外部講師による研修の充実を図る。
	7 児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障がいのない子どもと活動する機会の提供	3	2	10	コロナの影響もあり、十分な交流はできなかったが、来年度に向けて計画を練っていきたい。	25	4	12	20	園外で安心して子どもが活動できる日があればよいと思う。	児童の安全、安心を確保した交流活動を検討していく。
	8 事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	3	12	0	コロナ感染予防対策のため、地域住民との交流機会が少なくなった。						感染症拡大防止対策を徹底しながら地域に開かれた事業が展開できるよう検討していく。
保護者への説明責任・連携支援	1 支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	10	5	0	パンフレットや動画を使って具体的な支援の様子等について分かりやすい説明に努めている。	60	1	0	0	いつも丁寧に説明していただき助かっています。	懇談会や文書で支援内容等について丁寧な説明を行っていく。
	2 児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	13	2	0	毎月の懇談会で毎日通園児童の保護者には支援内容や現状について丁寧に説明を行っている。	54	1	2	0		今後も丁寧な説明を行っていく。
	3 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレント・トレーニング等の支援の実施	4	11	0	コロナ感染予防対策のため、保護者学習会等の行事は行えなかったが、組別の懇談会をもち、それぞれの困りごとについて話し合った。	35	10	6	11	トレーニングではなく、たくさん伝え合い、対応の仕方などを教えてくださる。	保護者の学びの場や保護者同士が情報交換できる場づくりに取り組んでいきたい。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた 改善内容・改善目標		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
保護者への説明責任・連携支援（続き）	4	子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	13	2	0	日々の連絡帳に園での状況や家庭での状況を記述し、情報を交換している。また、気になることがあれば電話で連絡を取るようになっている。	59	3	0	0	できるようになったこと、よかったところをその都度ノートに書いてくださったり、電話で教えてくれます。	保護者との連絡を密にし、小さな気付きを大切にする関係づくりに努めたい。
	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	11	4	0	担当が一人だけで対応することがないよう声掛けをするとともに、主任や副主任が話を聞き、助言するようになっている。	52	5	2	3	よく話を聞いてくれて助言して下さる。	共に考える姿勢で傾聴し、より具体的な支援ができるよう情報収集に努める。
	6	父母の会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	7	8	0	保護者会参加や開催に係るポスター掲示の場所提供等をするなど保護者同士の活動に協力した。	10	14	13	22	交歓会を開いてくださり、年2、3回ゆっくりお話ができます。	感染症拡大防止対策に配慮しながら保護者同士が関わる機会を増やしていきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	12	3	0	保護者からの意見を真摯に受け止め、園としてできることに誠実に取り組んだ。	35	3	2	19		苦情を機会として園の取組を見直すとともに、迅速かつ適切な対応が取れるよう努める。
	8	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	12	3	0	児童の特性に応じた意思疎通手段が身に付くよう研修を行っている。	49	5	1	4		個に応じたよりよい対応が取れるように努める。
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	13	2	0	ホームページでの発信や毎月の園だよりの発行、行事についての配慮事項のお知らせなど情報発信に努めた。	29	3	2	24	前もって通知してくれていたのので仕事の休みは取りやすかった。	ホームページや毎月の園だより、行事等のお知らせなどの充実に努める。
10	個人情報の取扱いに対する十分な対応	13	2	0	個人情報を取り扱うときは、一人で行わないことを共通理解し、西条市社会福祉協議会個人情報保護規定に則った業務を行っている。	53	2	0	4		今後も職員が危機感をもって個人情報を取り扱う。	
非常時等の対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	10	5	0	契約時に説明を行うとともに、各マニュアルを作成し、掲示板に常時掲示している。	37	5	3	15	実施日等が不明だが、利用前に緊急対応マニュアルの説明があったため、不安には思っていない。	園だよりなどで避難訓練の実施日を連絡するとともに、各種マニュアルの周知に努める。
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	10	5	0	消防署などの指導に従い、月1回は避難訓練を行っている。	35	2	0	22		消防署や警察など関係諸機関のご指導をいただきながら非常災害に対応できるよう訓練に努める。

区分	チェック項目	事業所の現状評価				保護者の方の評価				評価を踏まえた改善内容・改善目標		
		はい	どちらともいえない	いいえ	工夫した点、改善点	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない		保護者の方のご意見	
非常時等の対応（続き）	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	8	7	0	具体的な事案を基に指導員が取るべき対応について協議するなど実践的な研修を行っている。						年間研修計画の中に虐待防止等の重要な課題を定期的に取り入れていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	3	12	0	身体拘束を必要とする利用者は通園していないので、児童発達支援計画には記載していない。						保護者との情報交換を密にして、児童の変化に気づき、早めの対応ができるように努める。
	5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	12	3	0	食物アレルギーに関するアンケートや毎月保護者から提出される給食変更依頼表を基に毎朝当日の給食変更を確認している。						情報共有を行い、確実に対応できるよう複数の職員で確認する。
	6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	13	2	0	毎月ヒヤリハット事例の提出期限を設定し、職員会議等で原因や対応について共通理解をもつようにした。						今後もヒヤリハット事例を記録し、より安全で楽しい活動ができるよう具体的な改善策に取り組む。